

Ⅲ 川崎市アートセンター事業（指定管理者事業）

1 芸術文化事業

平成 19 年 10 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日までの川崎市アートセンターの管理運営を指定管理者として「川崎市文化財団グループ」（当財団と特定非営利活動法人アートネットワーク・ジャパンの二者で構成）が受託し、第 1 期指定管理 5 年次目となる平成 23 年度の事業を次のとおり実施いたしました。

23 年度は、年度当初、東日本大震災に伴う貸館事業の中止などもありましたが、概ね順調に事業を展開することができました。

○小劇場及び映像ホール ＊（ ）は平成 22 年度

項目	アルテリオ小劇場	アルテリオ映像館
開館日数	360 日	
メンテナンス日数	13 日	
利用可能日数	347 日（345 日）	
利用日数（稽古日数を含む）	277 日（243 日）	315 日（308 日）
日数利用率	79.8%（70.4%）	90.8%（89.3%）
公演・上映等回数	136 回（131 回）	1,496 回（1,344 回）
主権公演	60 回（60 回）	
共権公演	7 回（12 回）	
提携公演	26 回（10 回）	
貸 館	43 回（49 回）	8 回（22 回）
入場者数	15,575 人（11,405 人）	39,807 人（35,088 人）

○その他の施設 ＊（ ）は平成 22 年度

	楽屋	映像編集室	録音室	工房	研修室
メンテナンス日数	13 日				
利用可能日数	347 日（345 日）				
利用日数	227 日	81 日	149 日	190 日	286 日
日数利用率	65.4%	23.3%	42.9%	54.8%	82.4%

(65.5%) (19.7%) (41.4%) (67.8%) (62.6%)

(1) 舞台芸術等文化振興事業(アルテリオ小劇場)

(詳細は別紙 1 をご参照ください。)

① 主催事業

指定管理者として主催事業を12事業、60公演実施しました。主なものとしましては、

- ・ 川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカしんゆり）事業として、ゴールデンウィークに「サブロ・フラグメンツ/勅使川原三郎」を映像上映2日、公演を8日開催しました。
- ・ 8月には、「マッチ・アップ・ポンプ/キリンバズウカ」公演を8回開催し、若い観客層の拡大につながりました。
- ・ 海外招聘公演として、9月に「エリザベス・ラスト・スタンド/ノーラ・レイ」公演を3回開催し、ほぼ満席の盛況でした。
- ・ 10月には、「出合頭/イデビアン・クルー」公演を7回開催しました。
- ・ 第1期の締めくくりとして、2月に「女王の器/サンプル」公演を11回開催し、老若男女を問わず反響を呼びました。

② 共催事業

- ・ 共催事業としましては、2事業、7公演を開催しました。
「トラベラー 旅する人/U・フィールド」4公演、「玉川版 蒲田行進曲+ちゃんぷるーシアター/玉川大学舞台芸術学部」3公演を開催しました。

③ 提携事業

地域連携やアーティスト育成の一環として7事業、26公演を実施しました。主なものとしましては、

- ・ 7月に、「アンネの日記/劇団民藝」を14公演行い、計2,000人を超える入場がありました。
- ・ 地域に根付いてきたフェスタセサミの「ワークショップ成果発表公演」を5月、9月、3月に実施しました。

④ ワークショップ等事業

地域の子どもたちや若年層、また親子などを対象にワークショップなどを6事業36回実施しました。主なものとしましては、

- ・ 「かわさき赤い鼻教室/クラウン劇団 OPEN SESAME」、「こどもと@カフェ・アルテ」、「ゆるやかにのびやかなからだをつくる時間/木野彩子」

④ クリエイション・サポート事業

若手アーティストの育成を目的とした事業で、継続事業の最終年度は、2月～3月にかけて「AMANOGAWA 新百合ヶ丘/木野彩子」をワークショップ、収録、展示として実施しました。

⑥ 貸館

市民及び一般の劇団や文化芸術活動等の利用が19団体、43回あり

ました。

(2)映画、映像文化振興事業(アルテリオ映像館)

(詳細は別紙2をご参照ください。)

①「アルテリオ・シネマ」映画上映事業

- ・ 映画館上映として、新作・名画を併せて159作品を年間315日間、合計1,468回上映、38,258人のお客様に鑑賞いただきました。
23年度は、川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)2011特集として、「異才の系譜 川島雄三—今村昌平—浦山桐郎」と題して、4月30日から5月6日まで上映しました。また、「5月5日はこどもの日映画館」と位置付けてアニメーションを上映しました。
- ・ 上映支援等として、関係者試写、チャリティ上映及び団体鑑賞などを計14回行い、981人の来場があり、情報発信につながりました。
- ・ 企画特集上映として、「映画の国 名作選」「音楽映画特集」「マクナイーマ&シネマ・ノーヴォ特集」「平和のためのロードショー」「親子 de シネマ」「韓国ニュー・ウェーブ、再発見」「4周年記念特別上映」「黒澤明 名作選」「フレデリック・ワイズマン選集」などを上映しました。

②ワークショップ事業

- ・ 23年度も、夏休みと春休みに、「シネマわくわくワークショップ」を実施し、それぞれ100人の参加がありました。
- ・ 「3分間ビデオ制作入門講座」を2回実施し、計40人の参加がありました。
- ・ 23年度は、新たに高校生対象の試写会上映などを実施しました。

③トーク等開催事業

- ・ 上映映画に関連し、出演者、監督、映画評論家などをお招きし、トーク、舞台挨拶を合計18回開催し、計959人の参加がありました。

④バリアフリー事業

- ・ 視覚及び聴覚障害者に映画を楽しんでいただくためにバリアフリー上映を8作品20回実施し、86人の利用がありました。
- ・ 保育付き上映は、7作品12回実施し、17人の利用がありました。

⑤共催・連携事業

- ・ 「第17回 KAWASAKI しんゆり映画祭」については、23年度も企画段階から構成メンバーとして参画し、10月9日から16日までの開催期間も協働して運営を行うなど、共催で開催しました
- ・ コミュニティシネマセンターのシネマ・トーク・プロジェクトとアートシネマ・シンジケートに参加し、全国展開の企画協働上映を実施しました。

⑥アルテリオ・シネマ会員事業

引き続き、映画鑑賞サービスの一環として、会員価格等に特典のあるシネマ会員募集を行い、会員数の拡大に努めました。

総会員数 1, 473人（平成24年3月31日現在）（1,491人）

⑦広報・宣伝事業

- ・ 「アルテリオ・シネマニュース」を年12回発行しました。
（各回2～3万部）
- ・ ホームページ、メールマガジンでの発信
- ・ 企画特集等のチラシ・ポスター、観賞の手引等を作成し、個別企画の情報提供と広報・宣伝を実施しました。
- ・ 地域商店・企業・映画館・しんゆり芸術のまちフォーラム等の協力で、PRボードへのポスター掲示、店舗でのチラシ配置を行いました。

⑧映画・映像制作支援事業

- ・ 撮影支援として、館内外を問わずロケ現場としての活用を支援しました。
- ・ 制作支援として映像編集室・録音室の利用促進に努めました。

⑨映画・映像事業企画・作品選定委員会

- ・ 上映・企画の助言をいただく同委員会を6回開催しました。

⑩貸館

- ・ 月曜日や日曜日夜間の休映期間に団体の利用が8回あり、計250人が来場しました。

2 受託施設管理運営事業

来館者及び出演者等の安全確保等、施設の適切な管理運営に努めました。

23年度も2回、防災総合訓練を実施し、地震時の対応、AEDの操作などについて学びました。また、23年12月には、川崎市消防局から防火対象物として「消防適合認定」を受けました。

（施設の利用状況は別紙3をご参照ください。）